

クラス	Q307	担当教員	根来 民子
テーマ	子ども（障害児）における医療と教育の連携について		
著書・論文	著書：「発作時脳波からみた小児てんかん CD-ROM 付」共著、診断と治療社、2011.05. 「新時代の保育双書 図解 子どもの保健Ⅰ」共著、みらい、2011.04 「乳幼児の発達医療と生育支援」共著、南山堂、2007.07		
研究課題等	研究課題：小児てんかん児の臨床神経生理学的研究 障害児の医療と教育の連携について		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：子ども、障害児、小児医療、教育、療育			
<p><b>目的、内容、方法、授業計画等：</b></p> <p>＜はじめに＞</p> <p>担当教員は長年大学病院小児科で小児神経専門医として脳障害を持つ子どもの診療・臨床研究に従事してきました。特に難治てんかんを持つ子どもがてんかん発作だけでなく合併する発達障害のために学校生活上いろいろな制限を受けていることに直面してきました。一方学校生活が障害児の発達（人生）にどれほど大きな意味を持っているかについても目の当たりにしてきました。</p> <p>＜ゼミの目的＞</p> <p>このゼミの目的は学校の先生を目指す皆さんにもっと子ども（障害児）の病気について知ってもらいたいということです。そして将来支援が必要な子ども達に、よりきめ細かい個別的な支援を自信をもって行う中で、子どもたちとより豊かな人間関係が築けるようになることを願っています。</p> <p>そのためには自分の好きなテーマを①自主的にみつけ、②ゼミ内での発表を通して仲間の共感・協力を確認し、③実体験をする中で新しいことに挑戦する勇気や努力を実感し、最終的には研究することに喜びを見出してほしいと思っています。</p> <p>＜授業内容＞</p> <p><b>3年次前期</b>にはまず自分が興味・関心のあるテーマをみつけるための文献学習を行います。毎回担当を決めた輪読会・抄読会を行い、他のゼミ生への情報発信および討論を行います。</p> <p><b>3年次夏休み</b>にはプレリミナリーな実地体験（調査研究等）を目指しています。</p> <p><b>3年次後期</b>には卒業研究のテーマを決め、研究の目的（背景）を明確にし、研究方法・対象を選択し、実際に調査研究等を行ってみます。研究結果の解析（統計等）や他者にアピールできる表・図の作り方についても勉強します。</p> <p><b>3年次終了時</b>には研究の目的（背景）、研究方法・対象、研究結果、結論をゼミ内で口頭またはポスター発表し、皆で討論できるようにしましょう。</p> <p><b>4年次前期</b>はゼミ内発表での討論を踏まえて卒業研究の追加・修正を行います。考察を書くための精力的な文献学習が必要になります。</p> <p><b>4年次後期</b>は論文の要旨、キーワードを作成し、別紙論文の書き方に添って卒業論文を完成させてください。卒業論文集を手にして全員卒業できることを目指しましょう。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>3・4年のゼミは、大学での学びの集大成となるものです。テーマを見つけ、データを収集し、解析方法、発表方法を学び、考察のための文献検索に没頭し、卒業論文を執筆するなど、新しいことへの挑戦に満ちています。</p> <p>問題意識を持って主体的にゼミに参加し、自分の意見を発表し、教員・仲間とともにゼミを作り上げていく学生の参加を期待しています。</p> <p>「時間厳守」・「期日厳守」を原則としています。</p> <p>期日を厳守した後の「達成感」を共有するためのゼミのコンパを大切にしています。</p>			